

2026年1月15日
愛知県美術館
プレスリリース

歌川国芳展

奇才絵師の魔力 UTAGAWA
KUNIYOSHI

歌川国芳（1797-1861）は、江戸後期に活躍した浮世絵師の最後の世代に現れました。そして、多種多様な国芳の作品は、それまでの浮世絵に無かった斬新な発想に基づき、浮世絵界に新風を吹き込んだのです。力強いポーズをとる英雄を大胆な構図と派手な色使いで描いた武者絵は、異色の魅力を放ち、国芳を一躍人気絵師に押し上げました。豊かな発想力は三枚続きの大画面を活かした大胆な武者絵や、西洋画法を取り入れた風景画、市井の女性の日常を捉えた美人画、ウィットに富んだ戯画などに存分に発揮されています。

国芳の作品にみられる新奇な表現は、見る者を楽しませる魅力にあふれています。本展では、幅広い画題を手掛けた国芳の武者絵、戯画、美人画、風景画、役者絵に肉筆画も加えた約 400 件の作品を展示し、国芳の全貌に迫ります。

- 展覧会名 | 歌川国芳展—奇才絵師の魔力
UTAGAWA KUNIYOSHI : The Spellbinding Ukiyo-e Works of an Eccentric Artist
- 会 期 | 2026年4月24日（金）—6月21日（日）
会期中展示替えあり
前期：4月24日（金）—5月24日（日）
後期：5月26日（火）—6月21日（日）
- 開館時間 | 10:00—17:00、金曜日は 20:00 まで（入館は閉館の 30 分前まで）
- 休 館 日 | 月曜日（ただし 5 月 4 日 [月・祝] は開館）、5 月 7 日（木）
- 会 場 | 愛知県美術館（愛知芸術文化センター10 階）
〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2
- アクセス | 地下鉄東山線・名城線「栄」駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、
オアシス 21 連絡通路利用徒歩 3 分
- チケット | 前売・当日券
一般 1,800 (1,600) 円
大学生 1,000 (800) 円
高校生 800 (600) 円
中学生以下無料
※（ ）内は前売券および 20 名以上の団体料金です。
※上記料金で本展会期中に限りコレクション展もご覧になれます。
※心身に障がいのある方とその付き添いの方（1 名）は無料。

入館の際、各種手帳等をご提示ください。
※学生・生徒の方は当日会場で学生証（生徒手帳）をご提示ください。
※複数の割引の併用はできません。
※いかなる理由でも、主催者の責によらないチケットご購入後のキャンセル・払い戻しはできません。
あらかじめご了承ください。

[販売期間]

前売券：2026年4月23日（木）まで

当日券：展覧会会期中

[販売場所]

ローソンチケット（Lコード：45063）、セブンチケット（セブンコード：113-706）、チケットぴあ（Pコード：687-380）、アソビュー！、主要プレイガイド、愛知県美術館チケット売場

主 催 | 愛知県美術館、読売新聞社、中京テレビ放送

展覧会

特設サイト | <https://www.ctv.co.jp/kuniyoshi/>

問合せ先 | 愛知県美術館 TEL 052-971-5511（代）

みどころ

■くじけぬ絵師根性―役者絵、武者絵

長く続いた下積み時代にくじけず筆力を鍛え続けた国芳。「水滸伝」の英雄たちを描いた 30 代初め、「武者絵の国芳」としてようやく浮世絵界に名を馳せました。そんな不屈の精神で、幕府の禁令もなんのその。天保の改革により役者や遊女を描くことが禁じられても、奔放な発想力で苦境を乗り越えました。



《本朝水滸伝豪傑八百人一個 天眼礮兵衛》
天保 2 年 (1831) 頃、個人蔵 [前期展示]



《坂田怪童丸》天保 7 年 (1836) 頃、
個人蔵 [通期展示]

■にゃんこ百面相―戯画、美人画

国芳は無類の猫好きでした。猫を美人の引き立て役としてだけでなく、主役として描き出したところが国芳の新境地。リアルな猫から人間に扮した猫まで、実に表情豊かな猫たちがあちこちに登場します。新発見のおもちゃ絵《流行猫の変化》もお見逃しなく。



《流行猫の変化》天保 12~13 年 (1841~42) 頃、
個人蔵 [通期展示]



《山海愛度図会 七 ヲゝたい 越中滑川大蛸》
嘉永 5 年 (1852)、個人蔵 [前期展示]

■予想外にぶっとんだ構図—武者絵、風景画

国芳が切り拓いたダイナミックな三枚続きの手法は、浮世絵の常識を打ち破りました。画面を貫く巨大クジラや巨漢は見る者を圧倒します。この構図力は風景画にも発揮され、西洋絵画の表現を用いながら、独特なアングルから捉えた景色も魅力の一つです。



《宮本武蔵の鯨退治》弘化4年（1847）頃、個人蔵 [通期展示]



《忠臣蔵十一段目夜討之図》天保2～3年（1831～32）頃、個人蔵 [通期展示]

■しゃれをきかせて笑いを誘う—戯画

楽しい笑いも機知に富んだ風刺もお手の物。

国芳にかかれば猫や金魚、狐に狸などの生き物、ひょうたんや化粧道具のような身近な品々に至るまでコミカルに擬人化され、恐ろしい妖怪も愛嬌たっぷりに。江戸の人々を笑わせた国芳のアイデアには、令和にも響くユーモアが満載です。



《みかけハこハるがとんだいゝ人だ》弘化4年
(1847)頃、個人蔵 [前期展示]



《きん魚づくし ぼんぼん》天保13年
(1842)頃、個人蔵 [後期展示]

■関連イベント

記念講演会

[日時] 5月2日(土) 13:30-15:00 (13:00開場)

[講師] 浅野秀剛氏 (あべのハルカス美術館館長)
神谷浩氏 (徳川美術館副館長兼学芸部長)

[会場] アートスペースA (愛知芸術文化センター12階)

[定員] 先着180名 ※申込不要・聴講無料 (ただし本展のチケットが必要です)。

スライドトーク (学芸員による展示説明会)

[日時] 5月16日(土)、5月30日(土)、6月13日(土) 各回 11:00-11:40
6月5日(金) 18:30-19:10

[会場] アートスペースA (愛知芸術文化センター12階)

[定員] 先着180名 ※申込不要・聴講無料。チケットをお持ちのうえ、開始時刻に会場にお集まりください。

■音声ガイド

人気声優二人の競演

数々の人気アニメで活躍する声優の花江夏樹さん(「鬼滅の刃」竈門炭治郎役ほか)、釘宮理恵さん(「銀魂」神楽役ほか)のナレーションでご案内します。国芳がこよなく愛した「猫」も登場。国芳にまつわるエピソードも織り交ぜながら、作品の見どころを楽しく紹介します。

歌川国芳展—奇才絵師の魔力

広報用画像申込書

※ご掲載にあたっての注意事項

- ・本展広報用画像の使用は展覧会の紹介を目的としたものに限らせていただきます。
ご使用可能期間は本展覧会終了までです。ご使用後、申請した画像は必ず破棄してください。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場（「歌川国芳展—奇才絵師の魔力」、2026年4月24日（金）—6月21日（日）、愛知県美術館）を明記してください。
- ・ご使用の際は下記のキャプション情報（作家名、作品名、制作年、所蔵者名等）を全てご掲載ください。
- ・画像は全て全図でご使用ください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・展覧会情報の確認のため、校正原稿を以下の問い合わせ先に FAX またはメールでお送りください。
- ・掲載誌（紙）、録画 DVD 等を事務局宛に1部ご惠贈願います。ウェブ媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。

ご希望の画像番号： _____

媒体名： _____

ジャンル： _____

掲載・放送予定日： _____

貴社名： _____

ご担当者名： _____

E-mail： _____

所在地：〒 _____

電話： _____

問い合わせ先／校正原稿等の送付先

広報に関すること（担当：齊藤）

展覧会に関すること（担当：由良、井上）

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

TEL: 052-971-5511（代）

FAX: 052-971-5604

E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp

press-apmoa@apm.or.jp

（※メールアドレスが変更しております）

歌川国芳展—奇才絵師の魔力

広報用画像



1.



2.



3.



4.



5.



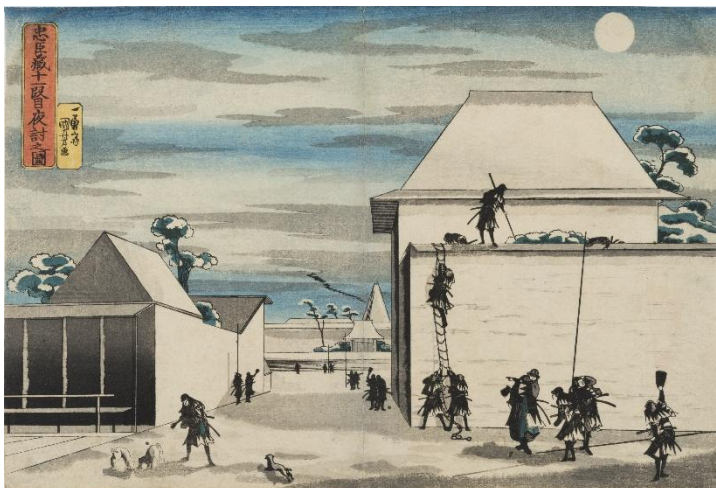
6.



7.



8.



9.



10.

11.



12.



13.

1. 《本朝水滸伝豪傑八百人一個 天眼礮兵衛》天保2年(1831)頃、個人蔵 [前期展示]
2. 《坂田怪童丸》天保7年(1836)頃、個人蔵 [通期展示]
3. 《源頼光公館土蜘蛛妖怪図》天保13~14年(1842~43)、個人蔵 [通期展示]
4. 《流行猫の変化》天保12~13年(1841~42)頃、個人蔵 [通期展示]
5. 《山海愛度図会 七 ヲゝいたい 越中滑川大蛸》嘉永5年(1852)、個人蔵 [前期展示]
6. 《其まゝ地口 猫飼好五十三疋》嘉永元年(1848)頃、個人蔵 [通期展示]
7. 《日本駄右エ門猫之古事》弘化4年(1847)、個人蔵 [後期展示]
8. 《宮本武蔵の鯨退治》弘化4年(1847)頃、個人蔵 [通期展示]
9. 《忠臣蔵十一段目夜討之図》天保2~3年(1831~32)頃、個人蔵 [通期展示]
10. 《みかけハこハみがとんだいゝ人だ》弘化4年(1847)頃、個人蔵 [前期展示]
11. 《きん魚づくし ぼんぼん》天保13年(1842)頃、個人蔵 [後期展示]
12. 《朝比奈小人嶋遊》弘化4年(1847)、個人蔵 [後期展示]
13. 《相馬の古内裏》弘化2~3年(1845~46)頃、個人蔵 [通期展示]